

1 市場動向の概要と対策

(1) 野菜

全体の動向と見通し

5月と6月の実績

(東京都中央卸売市場)

区分 品目	5月の取扱実績(計)				6月の旬別取扱実績							
					上旬				中旬			
	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)	入荷量 (t)	前年比 (%)	単価 (円/kg)	前年比 (%)
総数	162,419	95	189	109	47,457	87	203	110	52,867	109	205	95
だいこん	12,426	98	75	125	3,262	101	71	65	3,756	124	62	54
にんじん	9,047	88	130	118	2,344	75	114	144	2,830	108	105	104
はくさい	7,120	98	65	227	1,968	86	70	152	2,257	103	77	105
キャベツ類	19,796	100	59	117	5,008	93	47	118	5,342	105	53	98
ほうれん草	1,856	108	402	105	568	103	435	94	573	125	516	94
ねぎ	4,361	102	267	102	1,433	109	290	95	1,446	126	364	73
レタス類	8,154	97	118	110	2,308	90	148	102	2,587	95	158	161
きゅうり	9,654	95	175	101	2,729	85	232	127	2,892	112	194	76
なす	5,855	84	301	114	1,873	81	308	114	1,650	124	314	84
トマト	12,325	100	223	108	3,126	69	205	135	3,754	114	187	103
ミニトマト	1,546	102	384	115	349	78	370	115	328	108	460	121
にら	1,053	101	218	93	301	91	192	92	321	110	280	85
えだまめ	300	112	887	91	195	103	953	86	314	99	921	115
生しいたけ	663	77	866	127	166	79	1,030	120	188	99	953	103
たらの芽	10	91	3,554	115	0	36	2,366	117	0	356	1,158	74
食用ぎく	17	119	1,182	78	5	104	1,144	91	6	143	1,259	94

概況

前月に続き、関東平野の野菜類を主体に出回った。しかし、なす、ピーマン、たまねぎなど品目によっては西南暖地の残量と、きゅうり、とまとなど関東高原ものも出回り、産地別、作型別、価格差の大きい取引となった。このような事情のなか、全体の入荷量は、前年より少なめ、後半多めとなり、それとともに、だいこん、にんじん、きゅうり、トマトなど主力品目が後半弱含んで、月平均の平均価格は200円程度で前年並に落ちついた。

品目別に見ると、だいこん、キャベツなど大型品目のほか、ほうれんそう、こまつな、にらなどの葉もの小もの品目も安く、レタス、はくさい、にんじん、ピーマンなどの堅調な価格が目立った。

なお、中国からの輸入急増により、4月23日以降セーフガード暫定措置を発動したねぎ、生しいたけについては、前年並または若干の値上がりで経過していたが、とくにねぎは梅雨入り低温等の影響が加わって値上がりが注目され、主産地の雹害で少なくなった月後半高値にせまる堅調な価格となった。

(7月の見通し)

(東京都中央卸売市場)

品目	区分	入荷量 (t)			キロ当たり単価 (円)			山形県産前年7月実績	
		前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年実績	前年比 (%)	5カ年平均	前年入荷量	前年占有率 (%)
だいこん		10,661	100	11,093	87	90	95		
にんじん		7,427	100	8,018	111	95	152		
はくさい		7,583	100	7,076	79	100	74		
キャベツ類		15,487	101	16,218	52	95	71		
ほうれん草		1,161	105	1,285	592	100	649	1	0.1
ねぎ		4,484	95	4,429	209	120	290	1	-
レタス類		8,912	95	8,720	139	115	147		
きゅうり		10,334	100	10,562	165	105	214	579	5.6
なす		5,739	100	5,622	204	98	274		
トマト		11,249	97	10,694	217	100	240	461	4.1
ミニトマト		755	100	729	497	100	529		
にら		914	98	951	315	100	349	5	0.9
えだまめ		2,264	95	2,110	428	105	633	8	0.4
生しいたけ		544	100	567	918	105	1,039	5	0.9
食用菊		14	102	16	1,674	98	1,800	7	51.3

概況

いよいよ「おいしい山形」のきらめく季節本番。

雄大で清澄な自然と熟練した技術がはぐくんだおいしい味覚で、いかに流通と消費側を魅了するか。おいしく生長した収穫最適期の採りたて、もぎたてなど「たて」の状態で消費者へ届けることがポイントである。

さて、7月の野菜産地は、東北、北海道が全入荷量の30%を占めて主力となる。次いで長野など高原ものが20%を占める。5～6月期の主力となった関東ものは後退し、終盤となる品目が多い。

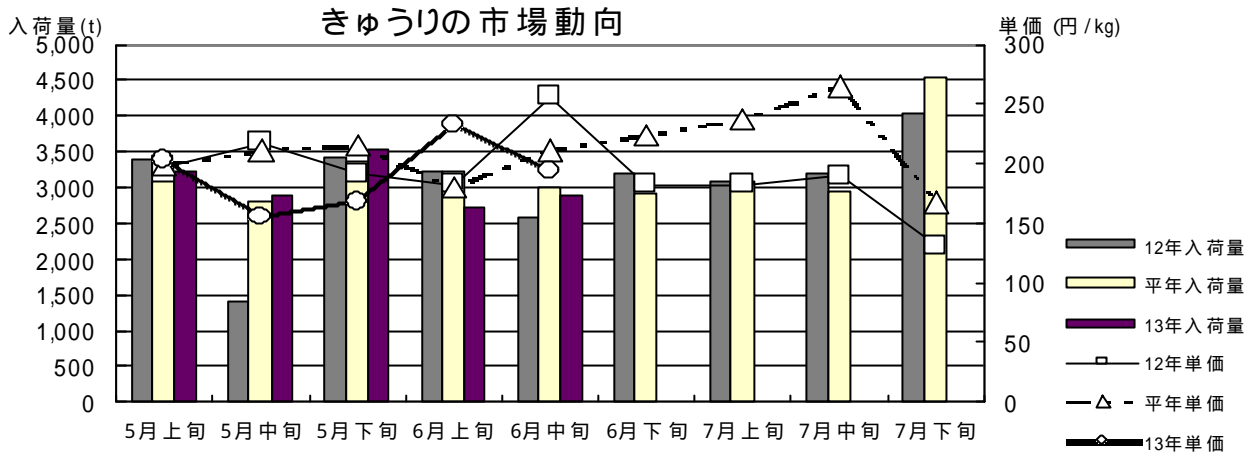
主な品目別には、前年を大幅に上回る品目はなく、前年価格に近い推移をたどるものと予想される。ここ数年の平均値から見ると厳しい価格形成となる。

品目別には、だいこん、にんじん、キャベツ類が苦戦。ねぎ、レタス、きゅうりなどが堅調の見通し。ただし、関東地方の梅雨明け平年日が7月20日で、梅雨終盤の荒れた天候によっては波乱も。向暑の折柄、鮮度保持と傷み防止に注意したい。

きゅうり

(1) 6月の販売状況

上旬	入荷量： 2,729 t (前年比 85)	価格： 232円 / kg (前年比 127)
中旬	入荷量： 2,892 t (前年比 112)	価格： 194円 / kg (前年比 76)



6月の総入荷量は約9,000トンでほぼ前年並。
 埼玉、茨城などの関東ものが70%を占めて主力となったが、福島、宮城、山形、岩手など東北産地も戦線に加わり、各産地が競合した中旬は前年比12%増、平均単価20%安となった。しかし、その後の回復基調となり、月全体では平均価格200円/kg台に乗り、まずまずの動きだった。

時期的に、関東から東北へ産地交代期となったため、産地ごとの価格差が大きかった。概して出荷始期の東北ものが、関東ものを約30%上回った。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 7月の見通し

色よし、つやよし、鮮度よしで計画出荷を！

入荷量
10,562 t
前年比 102%
平年比 100%

価格
175円 / kg
前年比 106%
平年比 82%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

東北各地産が全体の約75%を占め、6月とは様相を一変して、関東ものが15%程度にシェア低下となる

主要産地は概ね生育良好とあって総入荷量は前年並が予想され、品質の良い東北もののシェアが高まるか。昨年は過去5カ年最安値となったことから、5~10%高のキ口あたり180円台を回復したい。

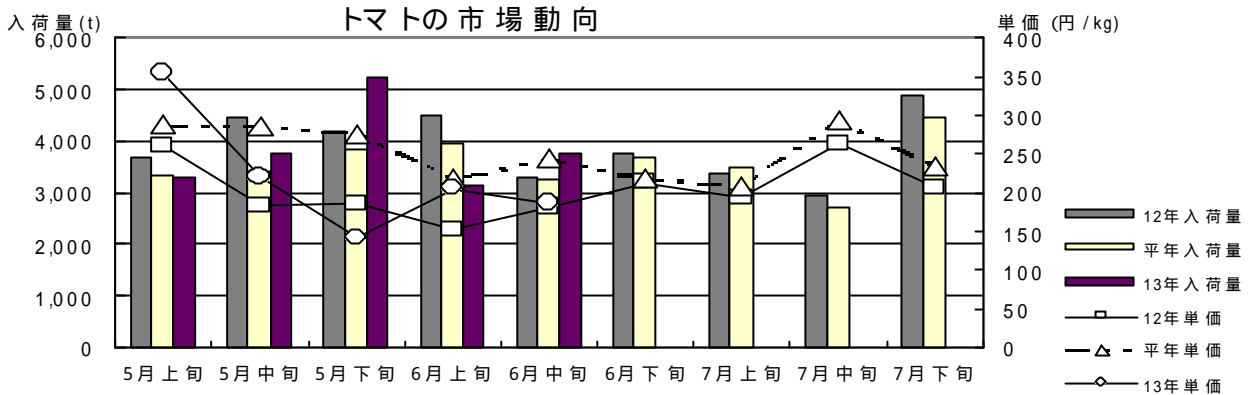
きゅうりは周年出回るが、旬は夏であることから、消費拡大を図りたい。

主な生産県の入荷見込み(7月)				作柄概況
県名	前年入荷量(t)	前年シェア(%)	前年比入荷見込(%)	
福島県	4,779	43%	100%	露地物は乾燥により活着がおくれていたが、6月に入っての降雨により、生育は順調となっている。 着果も概ね順調だが、一部に変形果散見。
岩手県	1,831	18%	102%	定植は平年に比べ7日程度早い。定植後に乾燥、風害等が一部に見られたが、生育は7日程度前進。 7月中旬から出荷最盛期。
秋田県	878	9%	100%	小雨の影響が見られたが、天候回復もあって着果は概ね順調。

トマト

(1) 6月の販売状況

上旬	入荷量： 2,729 t (前年比 85)	価格： 232円/kg (前年比 127)
中旬	入荷量： 2,892 t (前年比 112)	価格： 194円/kg (前年比 76)



愛知、熊本、宮崎、佐賀産など、暖地ものが例年になく大幅に残り、シェアの高い千葉、茨城、栃木産など関東ものが前年並の入荷。下旬には東北の産地が入荷し始めた。

前年は豊作型でここ数年で最も安いキロあたり180円程度であったが、今年は入荷量が前年比5%減の販売価格が同10%高であった。

上旬に入荷増と低価格現象が見られたが、価格水準の修正が進んだ。

産地交代期となって、産地ごとに過熟果、おせ果、傷み果などの混入、選別格差が見られ、価格差が拡大した。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 7月の見通し

消費者は価格より、おいしさ志向 !

入荷量
10,910 t
前年比 97%
平年比 102%

価格
217円/kg
前年比 100%
平年比 91%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

きゅうりと同じように前半は、千葉、茨城、群馬、栃木産などの関東ものが残るが、終盤期。平行して東北の産地が増量して過半を占め盛期となる。

各産地の作柄は、平年並の模様。前半は潤沢な入荷が続く、入荷量、価格とも前年に近い水準に落ちつくと予想される。

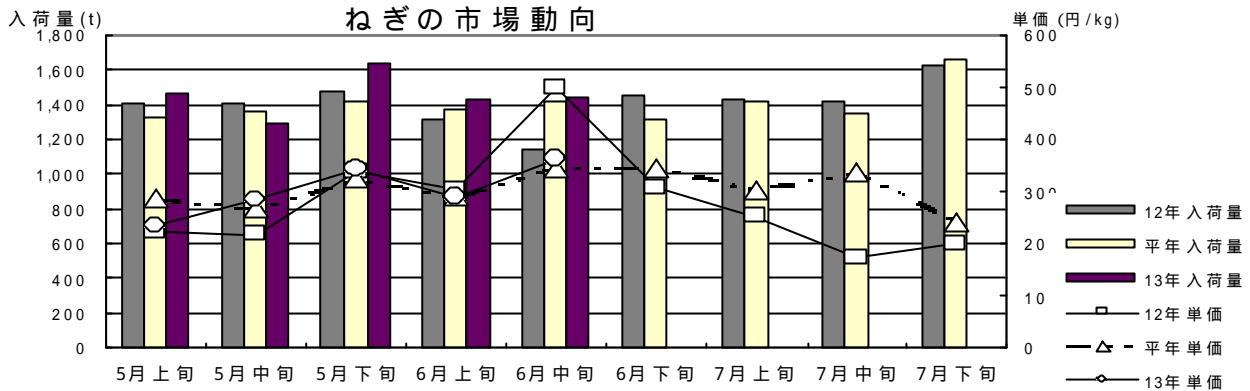
なお、近年のトマトは、高糖度のものに人気が集まる。6度ぐらいの糖度はほしい。甘みがないと消費が減る。価格よりも、おいしさと色沢の美しさを重視した商品づくりに留意したい。

主な生産県の入荷見込み(7月)				作柄概況
県名	前年 入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込 (%)	
青森県	2,199	20%	95%	本格的出荷期を迎え、作柄は生育期の気象条件も良く中心果房の着果順調。しかし、前年が過去3カ年最高のため、本年は前年より減となる。
福島県	1,480	13%	100%	生育は順調。着果良く、7月半ばより本格出荷となる。
千葉県	1,357	12%	99%	梅雨入り、樹勢はやや弱めに推移しているが、生育は良好で平年並の見込みである。病害虫の発生見られず、品質は良好で平年並。出荷量は前年並の見込み。

ね ぎ

(1) 6月の販売状況

上旬	入荷量： 1,433 t (前年比 109)	価格： 290円 / kg (前年比 95)
中旬	入荷量： 1,446 t (前年比 126)	価格： 364円 / kg (前年比 73)



昨年は、総入荷量の7割を占める茨城、千葉産が雹害のために大幅減となり、価格上昇したこともあって中国からの輸入ねぎにハズミがついた結果となった。

今年は、セーフガードのからみで輸入ねぎは減少したが、茨城、千葉産が前年比50~60%増となり、一応平年並の入荷となった。

したがって、全体の動きとしては前年比20%の入荷量増で、20%程度の安値だが、前年が異常年次だけだっただけに、比較的堅調な動きとなった。

とくに、6月後半に入り、1週間程度は雨と「梅雨寒」で少なめとなり、夏系ねぎ5kgL級で2,500~2,000円、坊主不知系で5kgL級1,500~1,000円。中国輸入ねぎ5kg1,500~1,000円と高めの推移となった。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 7月の見通し

葉は緑濃く、軟白部はつやとしまりのよいもので!

入荷量
4,260 t
前年比 95%
平年比 96%

価格
250円 / kg
前年比 120%
平年比 86%

旬別相場予想推移
上旬 →
中旬 →
下旬 →

茨城産が全体の50~60%を占め、次いで千葉、埼玉の両県で20%を占める。さらに、東北北海道の夏ねぎも後半に登場、市場は品質の良い夏系ねぎに一変する。

しかし、昨年は主産県の災害をカバーするように中国ねぎが激増し、むしろ近年にない入荷増で6月の反動安を招いた。今年は、主産県の入荷が平年並にもどる一方、中国ねぎの減少で総入荷量は前年比5~10%減。価格は落ち着き、上旬はL級5kg当たり2,000~1,500円。中下旬は同1,500~1,000円程度と予想。

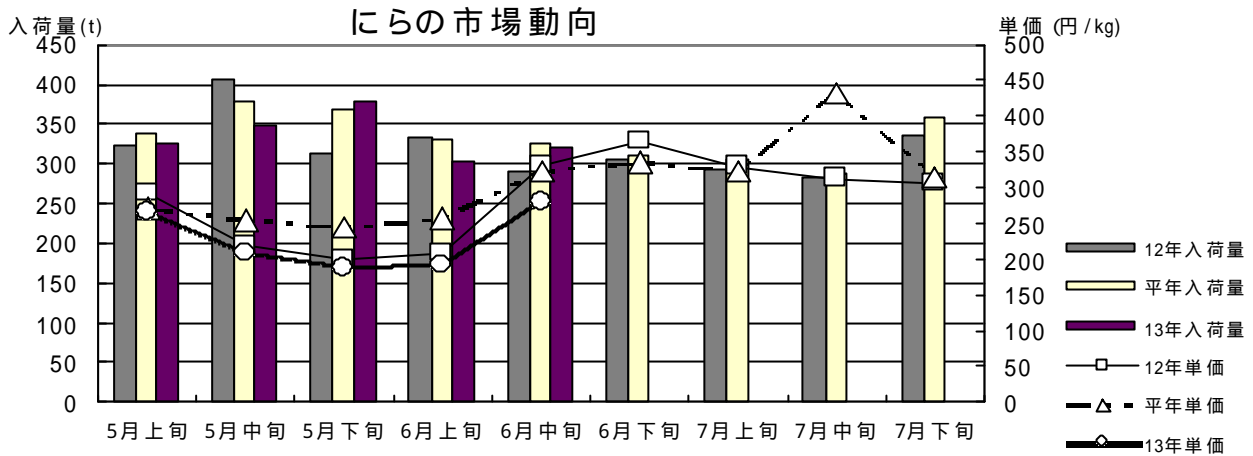
ねぎの評価は、軟白部のつやとしまりのよいもの、また葉しょうは緑色の濃いものが高い。葉にサビ斑点があると、著しく市場評価が落ちる。

主な生産県の入荷見込み(7月)				作柄概況
県名	前年 入荷量(t)	前年シェア (%)	前年比入荷 見込(%)	
茨城県	2,324	52%	113%	肥大 品質ともに良好。一部さび病、べと病が散見される。出荷量は降雹の影響により少なかった前年をかなり上回る見込み。
千葉県	608	14%	104%	好天により夏ねぎの生育は進んでおり肥大は良好である。病害虫はとくになく 品質は良好で2Lの発生が多い見込み。作柄は豊作型に近く 出荷量は前年をやや上回る見込み。
埼玉県	345	8%	103%	一部、冬季の低温及び4月の乾燥により生育に遅れが見られる地域があるものの、全体的には、生育は順調である。出荷量は前年を上回り平年並の見込み。

に ら

(1) 6月の販売状況

上旬	入荷量：	301 t (前年比 91)	価格：	192円/ kg (前年比 92)
中旬	入荷量：	321 t (前年比 110)	価格：	280円/ kg (前年比 85)



周年的に栃木、茨城、千葉産が主力で、6月も栃木35%、茨城25%、千葉15%のシェア。ほかに山形産が6月から7月が最盛期で4位のシェアが注目される。

上位3県の入荷は前年に近いが、山形など東北ものは、融雪の遅れと雨不足の影響等から平年より10日遅れでスタートし、その分6月は前年比50%増。市場全体の入荷量は前年比10%増。価格は100g束当たり25円中心と同15%安い。

今年は「地もの」も多く転送がきかない一方、気温上昇で消費が伸びず、スタミナ野菜としては弱気の雰囲気があった。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 7月の見通し

夏負け防止は、にらのスタミナで!

入荷量
896 t
前年比 98%
平年比 94%

価格
315円/ kg
前年比 100%
平年比 90%

7月のにらもやはり6月同様の産地でピークが続く。

各産地の生育は順調だが、関東ものは減少傾向に向かう分6月よりも7月は2～5%減少する見込み。全体では900トンと前年並と予想される。

この時期は、全国的に露地の地ものが出回るため、東京市場から地方への転送は減少する。そのため、価格は不安定となりやすい。

価格は低迷状態が続いているが、東北もののシェアが高くなる分でキロ当たり300円台を期待したい。

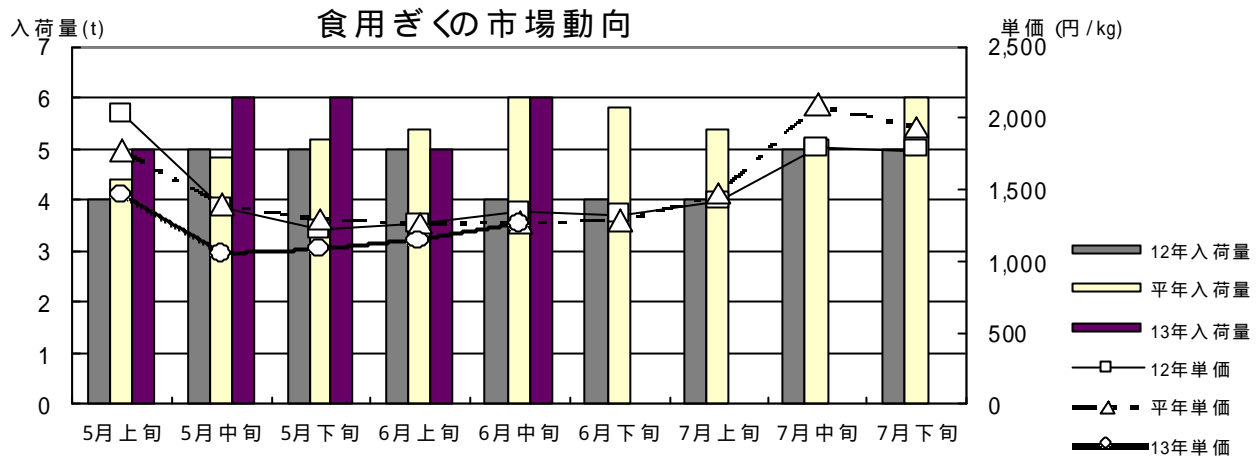
鮮度、葉色、葉幅に注意して選別強化が望まれる。

主な生産県の入荷見込み (7月)				作柄概況
県名	前年入荷量 (t)	前年シェア (%)	前年比入荷見込 (%)	
栃木県	378	41%	96%	生育は概ね順調である。目立った病害虫の発生が見られないが、一部コナガの発生が見られる。
茨城県	191	21%	100%	根株の充実度は回復。平年並の出荷が続く見込み。
千葉県	131	14%	100%	梅雨入りで適度の降雨あり、生育は順調。しかし、とり遅れなどで葉に固めのものがある。

食用ぎく

(1) 6月の販売状況

上旬	入荷量：	5 t (前年比 100)	価格：	1144円 / kg (前年比 91)
中旬	入荷量：	6 t (前年比 150)	価格：	1259円 / kg (前年比 94)



6月の産地別シェアを見ると、山形産が50%、愛知40%、秋田10%となっているが、愛知は小菊ツマ菊。山形と秋田は、食用ぎく。山形、秋田産はおひたし、天ぷらなどに用いられている。

愛知のツマ菊は、100gパック200円中心で経過し、高い日は500円と高低差がある。

山形産食用ぎくは100gパック入れ100円を中心で、入荷量、価格は前年並。夏場の需要は年間のなかでも低調で、業務用の動きも鈍いようだ。

栄養面や食卓の演出効果で、一般家庭での消費を伸ばしたいものだ。

東京都中央卸売市場扱い。

平年は平成8年から12年までの平均値。平年単価は5カ年単価の単純平均。

(2) 7月の見通し

シャキ、シャキと、色合いで!

入荷量	価格
14 t	1640円 / kg
前年比 100%	前年比 98%
平年比 85%	平年比 91%

前月に引き続き、3大産地の入荷となる。

7月の入荷は山形産が7トン台、秋田産が2トン台とこの数年安定している。今年も作付け面積と作柄が安定しているから、前年並の入荷が予想される。

一方、市況は7月になると若干上向く傾向があり、100gパック当たり120~100円となろう。

暑い時期だけに、トロケ防止のため水気と汗に注意。的確な産地情報を市場関係者に早めにつなぐことが大切。